

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無 志 燈

2009年9月
No.132



大谷大学同窓会

「よき仲間とともに」

訓覇曄雄先生にインタビュー



— 本学において、35年にわたり教鞭をおとりいただきました訓覇曄雄先生を、三重県三重郡菰野町の御自坊にお訪ねし、お話を伺いました。

— 大谷大学との馴れ初め、関わりはじめについて

三十歳近くなるまで、大谷大学との関わりはほとんどありませんでした。でも私は、真宗大谷派の学事関係のところには、大谷高校、教学研究所、大谷専修学院など、みんな顔をだしていました。金もないのに、どうして食っていこうかなどとほとんど考えたことがなかったので、今

から思うと、いろいろな人たちが、糸の切れた凧のように、どこかへ飛んでいってしまわないようにいろいろ配慮して下さっていたのですね。だから大谷大学にお世話になって、こんなに長く奉職するようになったのは、その頃は考えもしなかったことです。大学院に居る時から、専修学院には専任のような形でお世話になつていたので、自分そんな形ですと思っていました。ところが、谷大のドイツ語・ドイツ文学で、大庭米治郎先生の下におられた岸繁一先生が同志社に移られることになって、後任に誰かということ、岸先生がやつきになって探しておられ、まあ暴力的に入れられたわけです。そんなことで、私はドイツ語の専任講師ということになりましたが、西洋文学研究室の助手兼任ということでした。英文と独文共用の西洋文学研究室というところに机をおいて勤務していたのですが、そこで実際には、前から手がけておりました「カントの目的論」という論文を書いており

まして、一年くらいして『哲学研究』に載せてもらいました。そんなことで、大庭先生と哲学の金松賢諒先生が相談されて「君はやっぱり哲学の方がいい」ということになって、二年ほどで文学科から哲学科の方へ移りました。

— なぜ哲学を？

その頃の京大の仏教学とインド哲学は主任教授が長尾雅人、松尾義海、助手が梶山雄一、服部正明という、今にして思えば錚々たる顔ぶれでしたが、しかしそちらへは全然目が行きませんでした。第二次大戦の敗戦から十年も経っていないのですから、西洋学ぶべしというのが一般的風潮でした。そんなことで西洋のもの考え方を学ぼうとしたわけです。私は一方、相応学舎ですと安田理深先生の真宗・仏教の講義をお聞きして、大学院の終わり頃には、やはり仏教の方が人間を包括的に捉えていると思うようになっていきました。が、しかし個々の問題の切り口は西洋の方がシャープというか、仏教はほとんど取り扱う術を持たない、あるいは関心が無いようにみえました。例えば哲学は、昔から宗教からんで、学問と宗教、理性と信仰の関係とか、宗教と国家の関係とか、さまざまな問題を取りあげてきています。

それで当分は哲学を続けて問題解決の力をつけようと思いました。

— オーストックスなカントからはじめてヘーゲルで終わってしまった、つまりドイツ観念論の周りをウロチョロしただけというのが私の哲学人生という情けないことになりました。また私が志したのは哲学的課題に仏教の方から答えるというなるのか、そのことよって仏教の現代の思想状況のなかでの位置づけができればというものでしたが、この点から言えばなおのこと、成果はゼロに近いということになります。ただ先にあげた理性と信仰、知と信という問題については、機会を得て哲学と仏教をなげまぜにしたような論文を書きました。成果はともかく今後こういうことを考えようとする人が生まれればと思っております。大学に在る間に取り組めなかったのは、先に上げたもう一つの問題、宗教と国家の関係という問題です。哲学の問題としては二三の論文を書いていたのですが、仏教の方からはどう考えたらいいかということ、全く手をつけることができませんでした。実は、大学をやめてから三年ぐらいで、なにか解決の手がかりがつかめるつもりでいたのですが、十年目の今も事情は同じで、私の寿命より、問題の寿命のほうがはるかに長いというの

が現在只今の感懐です。

— 先生が大事に思っていたことがありましたら

私が谷大に行ったとき、ある教員に仏教についての質問をしたことがありました。そうしたら「それは専門のことだから」と言って答えてくれなかったのです。「そんなバカな」と思いました。聞思館にあった研究室は八つに分かれていて、互いの交流はあまりありませんでした。小さい大学の中をさらに細分化して「わしはこれ」、「おまえはあれ」とやっていたわけです。そういう垣根のない大学でありたいとまず思いました。そんなことで研究領域の違う若手の研究者が十数人集まって、お互いの論文を批評しあう合評会を始めました。大変有意義な会でしたが、なぜ続かなくなったのか思い出せませんが、数年後に起こった全共闘の大学闘争に巻き込まれてしまったのだったかもしれません。そう言えばあの騒動のなかで学生諸君から批判の言葉として一番聞かされたのは「専門バカ」という言葉でした。それに対して谷大で盛んに使われたのは「総合」という言葉でした。真宗総合研究所とか、博覧館の西にあった四群六層の研究室体制とかいろいろありますが、甚深の意味合いを込めて

「総合」という言葉が、私の発想やら行動やらをリードしていたように思います。

— 大谷大学の中で大切にしている欲しいものはなんでしょう

学長をしているあいだ、清沢先生の「本学は他の学校とは異なりまして…」を機会あるごとに口にしてきました。あまり繰り返すと「またか」となって、多少面映い気がしないでもありませんでしたが、これが私の仕事だと思つて「バカの二つ覚え」のように繰り返してきました。国のため、社会のためではなく、学生一人一人の人間としての完成のために大学はあるのだということです。

— 昨今『教養主義の没落』という本がでています。教養主義というのはエリート主義というのではなく、トータルな人間形成を大事とするというところで、日本の大学の文学部がその役割を担ってきたと思います。現今の社会状況、大学状況のなかで、文学部の役割が霞んできて、それに応じて現代人は価値・関心の多様化のなかで、統合に変調をきたしています。文学部単科の大学を標榜してきた大学ですから、困難の中にもその役割に大きな自信を持ってほしいと思います。

〔略歴〕

一九三四年 三重県に生まれる
一九五七年 京都大学文学部卒業
一九六三年 京都大学大学院博士課程単位取得

一九六五年 大谷大学専任講師
一九七一年 大谷大学助教授
一九七八年 大谷大学教授
一九八〇年 大谷大学学監・文学部長
一九八八年 同右
一九九四年 大谷大学学長
二〇〇〇年 大谷大学退職
現在 大谷大学名誉教授

〔共編著〕

『倫理学とはなにか—その歴史と可能性—』

〔共訳〕

『認識論の根本問題—カントにおける現象概念の研究—』

〔論文〕

「カントの目的論—論理的合目的性と美的合目的性—」
「実践理性の二律背反」
「若きヘーゲルのキリスト像」
「イエナ期の国家観と『精神現象学』—政治とそれをこえること—」
「カントの実践哲学—批判主義の政治観—」
「批判と形而上学—超越論的弁証論の意味—」
「現代における知と信」
「国家と宗教—ヘーゲルの場合—」
ほか論文多数

うわさ話

ここに一文を書いている私も、なにか深い考えがあつて先生のゼミを選んだわけではありません。ゼミ決定のとき、どこからともなく聞こえてきた「先生って面倒見がいいらしいでえ」という「うわさ話」に、なぜか私は全幅の信頼をよせたのでした。

大谷大学准教授(哲学) 村山保史

その後、私はことあるごとに先生から御配慮を頂戴しました。大学院ではいったん大谷大学を離れたのですが、そのときいただいた電話は忘れられません。自分のもとから勝手に去って行った面倒な学生に、先生はわざわざ研究文献を知らせてくださったのでした。

昨年のごとです。積もり続けた恩義の山を少しでも切り崩そうと、手土産もつて御自宅に押しかけたのですが、至れり尽くせりの歓待の前に、またもや返せぬものを増やしました。そうです。あのうわさ話は真実なのでした。

訓覇峰雄先生へのコメント



むらやま やすし
1990年3月修了
大学院修士課程哲学専攻



本部報告



二〇〇九年度同窓会総会を開催（報告）

二〇〇九年五月十三日（水）、博
綜館第一会議室において、本年度総
会が開催されました。

議長に佐賀支部長の奥村豊氏を選
出。各議案について活発な審議をい
ただき、それぞれ承認を得ました。
一、二〇〇八年度事業報告および収
支決算報告（左記「収支決算書」

参照）
二、役員選出（任期満了に伴う全役
員の改選）の件

▼任期満了に伴い、会則により全て
の役員（会長・副会長・理事長・常
務理事・理事・監事）の改選が行わ
れ、下記のとおり決定いたしました。
なお、役員の任期は、会則第十三条

により二年となります。

また、今回の役員改選により、永
年にわたり本部役員をお務めくださ
り、本会発展のために多大なるご尽
力を賜りました寺林惇前副会長が退
任されました。

記

2009年度 大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】	
科目	予算額
1.前年度繰越金	4,173,894
2.会費	30,600,000
会費(1)	2,250,000
会費(2)	28,350,000
3.入会金	4,725,000
4.出版物等売上金	120,000
5.雑収入	2,331,106
合計	41,950,000

会費(1):1990年度以前卒業者の終身会費・通常会費
会費(2):2009年度卒業者の終身会費

【支出の部】	
科目	予算額
1.事業費	14,900,000
本部事業費	4,100,000
支部事業助成費	5,500,000
同期会・OB会等開催助成費	800,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	4,000,000
2.刊行費	5,320,000
無盡燈刊行費	4,460,000
印刷製本費	860,000
3.事務費	5,970,000
本部事務局費	100,000
手当	480,000
通信費	5,390,000
4.旅費	8,570,000
5.会議費	1,620,000
6.委託費	2,600,000
7.雑費	620,000
8.同窓会基金への繰入支出	0
9.出版事業積立金への繰入支出	0
10.同窓会活性化準備金	1,850,000
11.予備費	500,000
合計	41,950,000

2008年度 大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】	
科目	決算額
1.前年度繰越金	4,361,642
2.会費	31,713,000
会費(1)	2,013,000
会費(2)	29,700,000
3.入会金	4,950,000
4.出版物等売上金	119,700
5.雑収入	1,738,390
合計	42,882,732

会費(1):1990年度以前卒業者の終身会費・通常会費
会費(2):2008年度卒業者の終身会費

【支出の部】	
科目	決算額
1.事業費	13,922,822
本部事業費	3,965,742
支部事業助成費	5,249,740
同期会・OB会等開催助成費	520,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	3,687,340
2.刊行費	5,097,967
無盡燈刊行費	4,443,552
印刷製本費	654,415
3.事務費	5,529,409
本部事務局費	39,671
手当	474,000
通信費	5,015,738
4.旅費	8,129,630
5.会議費	1,616,924
6.委託費	2,587,528
7.雑費	485,197
8.同窓会基金への繰入支出	531,516
9.出版事業積立金への繰入支出	14,045
10.同窓会活性化準備金	707,500
11.予備費	86,300
12.次年度繰越金	4,173,894
合計	42,882,732

会 長	藤島 建樹
副会長	北原 了義
副会長	二階堂行邦
理事長	佐賀枝夏文
常務理事	等岳 兼昭
常務理事	柴田 達也
常務理事	武井 弥弘
理事	石川 正生
理事	井関 浄
理事	大音 祖瑛
理事	加藤 隆昭
理事	北畠 顕信
理事	沙加戸 明
理事	菅原 信顕
理事	竹園 関
理事	中村 高澄
理事	吉田 法純
監事	稲垣 俊一
監事	朽木 明暁
常務理事	大内 文雄
常務理事	長谷岡英信
常務理事	木越 康
常務理事	一楽 真
常務理事	織田 顕祐
常務理事	藤嶽 明信



同窓会総会の様子

三、同窓会活動企画推進委員会に關
する件

▼企画推進委員会の等岳兼昭常務理
事（第一部会長）、一楽真常務理事
（第一部会学内担当）から活動報告
がなされた後、「第十四回ホームカ
ミングデー開催要項（案）」が提案
され、承認されました。続いて、二
階堂行邦副会長（前第二部会長）、
織田顕祐常務理事（第二部会学内担
当）から、活動報告並びに同窓会が
設立母体であるNPO法人「尋源舎」
（詳細は、七頁）の活動報告がなさ
れました。併せて、NPO法人「尋
源舎」への支部単位での団体賛助会
員加入の要請がなされ、承認されま
した。
四、二〇〇九年度事業計画および収
支予算（上記「収支予算書」参照）

芥川賞受賞の津村記久子さん、母校で語る

二〇〇九年七月八日（水）、大谷大学講堂において、第一四〇回芥川賞を受賞した作家の津村記久子さんをお迎えして、大谷大学課外教育行事特別企画「津村記久子さん講演会&トークセッション」が開催されました。



トークセッションの様子（大谷大学講堂で）

津村さんは、本学国際文化学科の卒業生（二〇〇〇年三月卒業）です。卒業後、会社に就職した津村さん。二五歳になって学生時代に書いた小説を月刊誌に投稿したのをきっかけに作家活動に入り、その後、二〇〇五年『マンイーター』（君は永遠にそいつらより若い）に改題）で第二一回太宰治賞、二〇〇八年には『ミュージック・プレス・ユー!!』で第



質問する在学生の代表

三〇回野間文芸新人賞、そして二〇〇九年一月には『ポストスライムの舟』で芥川賞を受賞されました。九年ぶりに、卒業後初めて母校を訪れた津村さんは、大学時代の思い出や子供の頃の創作の様子、どのように芥川賞受賞作品『ポストスライムの舟』が生み出されたのかなどを、語ってくださいました。子供の頃から、与えられた児童書を書き写して遊んでいたという津村さん。軽やかな文体にも、幼い頃からの積み重ねや、緻密な構想が背景にあることを知り、三〇〇名を超える聴衆もたいへん興味深く話に聞き入っていました。



終始笑顔で語られる津村記久子さん

在学生の代表三名とのトークセッションでは、独特の文体や、広がりを感じさせるようなエンディングなどについての質問がありました。とくに独特のエンディングについては、——現実の人生も自由に「開かれている」のだということを大切にしたい——と語られ、学生に對してたいへん貴重なメッセージをいただきました。

終始笑顔で語られた津村さん。その気さくで爽やかな語り口に、会場中が和やかな雰囲気になりました。時となりました。

開演に先立ち、藤島建樹同窓会長に代わり、木村宣彰学長より「同窓会特別賞」が授与されました。賞状とともに記念品の万年筆が贈られ、一同で、同窓生津村さんの芥川賞受賞の偉業を祝した会となりました。



「同窓会特別賞」を受賞する津村さん

後日、津村さんから同窓生へ、メッセージが届きました。

——先日はどうもありがとうございました。九年ぶりぐらいに大学を訪ねたのですが、新しい校舎ができていたり、セブンスレブンが入っていたりとびっくりしました。今また、大谷に入れたらなああと、帰りの電車で少し悔しく思いました。そういうわけで、学生の皆さんは、大学での貴重な時間を大切にお過ごしください。

津村

津村さん、ご多忙のなか来学くださり、ありがとうございます。今後のますますの活躍を、一同、念じております。

（学生部長 木越 康）

第十四回 同窓会ホームカミングデーのご案内

恒例の同窓会ホームカミングデーが、今年も学園祭（「紫明祭」）開催期間中の土曜日に開催されます。

第Ⅰ部は、テーマ「発見 谷大同窓生」と題して、趣向をこらした各種イベントが企画されています。

懐かしい「恩師、旧友との再会」に話がふくらみ、また「学園祭模擬店の参加」により、学生時代を思い出していただけることでしょう。参加型イベント「あの人の探せ」では、同窓会役員・支部から寄せられる全国各地の「銘菓」「銘酒」「農作物」など、たくさんの景品が当たるくじ引きも予定しています。

第Ⅱ部の「同窓生の活躍紹介」では、ダシユ ショバ ラニさんと大谷 大学在生によるインド舞踊をご披露いただきます。



語らいのひと時

また、「ホームカミングデー」をゼミ・クラス同期会、学寮、クラブ等の集合場所として、この機会にご利用いただき、同期会、クラブOB・OG会等の開催を計画されています。いかがでしょうか。お仲間をお誘い合わせのうえ、母校 大谷大学にぜひお越しください。

【開催の概要】

【二〇〇九年十一月十四日（土）】

【第Ⅰ部】発見 谷大同窓生

▼博覧館・学内一円
十三時～十六時

- ・ 恩師、旧友との再会
- ・ 学園祭模擬店 参加
- ・ 参加型イベント

「あの人の探せ」

【第Ⅱ部】懇親会（会費五〇〇〇円）



恩師、旧友との再会

▼京都ロイヤルホテル&スパ

十七時三十分～十九時三十分

- ・ ダシユ ショバ ラニさん（同窓生）と在学生によるインド舞踊
- ・ 懇親会

★詳細は同封の案内状をご覧ください

お問い合わせは、同窓会本部

（TEL 〇七五―四一―八二二四）まで



全国の同窓会役員、支部から届けられたお品



同窓生によるインド舞踊

支部長交代のご紹介

ありがとうございました
よろしくおねがいいたします

倉手支部長

金

比呂正

（前支部長 大石敦彦）

禿

憲 仁

（前支部長 満田法子）

同窓生、「法語書展」を 母校で開催

二〇〇九年十月一日（木）から十五日（木）まで、大谷大学の響流館一階ギャラリーで早寄得雄さん（一九六一年文学部卒業・長浜市在住）の「法語書展」が開催されます。

早寄さんは長らく寺院や教務所、ギャラリー等で展示活動をされてきましたが、このたび母校での書作展を総決算にしたいとの希望で、開催の運びとなったものです。併せて、在学生の協賛展示も行われます。



作品制作に取り組む早寄得雄さん



「仏教公開セミナー」の様子（静岡県支部）

今年度より夏の巡回講演が、新たに「大谷大学・同窓会 全国縦断夏季八十講」（下記「ポスター」）として開催されました。夏季八十講は、全国に八十ある同窓会支部と、大谷大学とが協働して開催するもので、同窓生・在学生はもとより、広く市民にも公開され、地域社会の文化興隆に大きな役割を果たしています。

また、今年度、「静岡県支部」「福井支部」「神戸支部・阪神支部合同」「佐賀支部」の各支部では、NPO法人「尋源舎」との共催で、「仏教公開セミナー」として開催されました。

二〇〇九年度 夏季巡回講演
「大谷大学・同窓会」
全国縦断夏季八十講
並びに支部総会が開催される

※NPO法人「尋源舎」は、同窓会が設立母体となつて、二〇〇六年十二月に設立した特定非営利活動法人です。尋源舎は、皆さまからの賛助金（一口三千円）で活動を行っています。お問い合わせは、大谷大学同窓会本部（TEL・〇七五―四一―八二二四）まで。

大谷大学・同窓会 全国縦断夏季八十講

● 信越地区

信濃支部 8月 30日(土) 門田 隆 教授 信濃学院の歴史
新潟支部 8月 30日(土) 門田 隆 教授 信濃学院の歴史
上 支部 8月 4日(土) 門田 隆 教授 信濃学院の歴史

● 東海地区

静岡支部 8月 1日(土) 池上哲司 教授 今、ここに生まれる1945
三島支部 8月 21日(土) 小島清平 代理 教授 福島と信濃
福島支部 8月 21日(土) 池上哲司 代理 教授 中国近代の歴史から学ぶ
三 支部 8月 22日(土) 小島清平 代理 教授 福島と信濃
大 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 中国近代の歴史から学ぶ
福 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 中国近代の歴史から学ぶ
上 支部 8月 22日(土) 小島清平 代理 教授 福島と信濃
例 上 8月 22日(土) 小島清平 代理 教授 「信濃の魂、信濃史 ― 凡そ人の歴史と信濃 ―

● 北陸地区

富 支部 8月 15日(土) 一 高 義 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学び ―
高 支部 8月 15日(土) 山田隆文 講師 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びから見えること ―
富 支部 8月 15日(土) 山田隆文 講師 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びから見えること ―
小 支部 8月 15日(土) 山田隆文 講師 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びから見えること ―
大 支部 8月 15日(土) 山田隆文 講師 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びから見えること ―
福 支部 8月 15日(土) 山田隆文 講師 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びから見えること ―

● 近畿地区

高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 教授 今、ここに生まれる1945
高 支部 8月 22日(土) 門田 隆 教授 信濃学院の歴史
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 大谷大学の歴史
高 支部 8月 22日(土) 一 高 義 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学び ―
丹 支部 8月 22日(土) 一 高 義 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学び ―
大 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びから見えること ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びから見えること ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びから見えること ―

● 中国・四国地区

高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―

● 九州地区

高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―

● 北海道地区

高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―

● 東北地区

高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 1日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―

● 関東地区

高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―
高 支部 8月 22日(土) 池上哲司 代理 教授 信濃と信濃をつつて ― 信濃の学びを通して ―

※「仏教公開セミナー」として、NPO法人「尋源舎」(大谷大学と)同窓会が協力を得て仏教公開セミナー特定非営利活動法人との共催で行っています。

お問い合わせ：大谷大学同窓会本部 〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8124

母校だより

名誉教授の称号がおくられる

このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生におくられる名誉教授の称号が、石橋義秀先生（国文学）、築山修道先生（比較思想・国際文化学）、豊島修先生（日本宗教民俗学）、松村尚子先生（社会学）におくられました。授与式は二〇〇九年四月一日（水）、学長室において行われました。



築山修道名誉教授



石橋義秀名誉教授



豊島修名誉教授



松村尚子名誉教授

中西随功氏が博士（文学）の学位を取得

大谷大学大学院文学研究科博士後期課程仏教文化専攻を一九八二年九月に満期退学された中西随功氏が、学位論文を提出され、博士（文学）の学位を取得されました。授与式は二〇〇九年一月二十七日（火）、大谷大学にて行われました。

◎中西随功氏（西山短期大学副学長）
「證空浄土教の研究」



中西随功氏

宗祖親鸞聖人御誕生会を厳修

宗祖親鸞聖人の御誕生会が、二〇〇九年五月三十日（土）講堂において、来賓、教職員、在学生、一般来聴者約五百人の参加を得て厳修されました。

勤行に引き続き、学長挨拶、記念講演が行われ、作家の青木新門氏から、「命のバトンタッチ—映画『おくりびと』—」と題してお話をいただきました。

青木氏は、映画「おくりびと」が制作されるきっかけについて、俳優の本木雅弘さんとの出会いから話され、「映画」と著作『納棺夫日記』の違いは、「死」の捉え方にあることや、自身が「死」を認識し、肯定的に受け入れることができたことについて、納棺夫として勤める自身の経験に沿ってお話いただきました。

死の瞬間に立ち会うこと、死を肯定的に受け入れることの大切さを熱く語られ、昨今の青少年による凄惨な事件は、現代の死を隠蔽する文化にあるのではないかと指摘されました。青木氏のユーモアを交えながらの講演に、聴衆は最後まで熱心に耳を傾けていました。



青木新門氏

大谷学会「春季公開講演会」を開催

二〇〇九年五月二十八日（木）、一般参加者を含め大勢の聴衆を迎えて、大谷学会「春季公開講演会」が開催されました。

最初に大谷大学の水島見一教授が、本年度開設の教育・心理学科主任の立場も踏まえて、「真宗と教育—清沢満之の『独尊子』について—」を講演されました。清沢満之が帝国大学で西洋哲学を学びながらも、学者の道を放棄して京都の中学校で教育実践を行ったこと、そして、思索の果てにたどりついた迷える主体としての自己のあり方こそが、教育の主体としての「独尊子」であると説明。そのうえで、「独尊子」を教育現場において実践された元大谷高等学校

母校の動き (2009年4月～2009年8月)

2009年

4/ 1(水)【学年始・宗祖誕生日】
【入学式】

4/ 1(水)～5/16(土)
【博物館 2009年度春季企画展】
大谷大学のあゆみ「大学の前身・学寮の時代」

4/ 4(土)【若葉祭】
4/ 7(火)【前期授業開始】

4/ 8(水)【釈尊降誕日】

4/28(火)【宗祖御日勤行・講話】
「欲望について—ジャック・ラカンから学んだこと—」
番場 寛 大谷大学教授

5/13(水)【同窓会総会】

5/28(木)【大谷学会春季公開講演会】
「真宗と教育—清沢満之の『独尊子』について—」
水島 見一 大谷大学教授
「死んでゆく不思議・生まれてくる不思議」
—こどもたちにどう伝えるか—
西平 直 京都大学教授

【宗祖御日勤行・講話】
「随喜ということ」 兵藤 一夫 大谷大学教授

5/30(土)【宗祖誕生会】
「命のボタンタッチー映画『おくりびと』によせて—」
青木 新門 作家

6/ 2(火)～ 8/ 3(月)【博物館 2009年度夏季企画展】
「儒・仏・道・神—東アジアの宗教と文化—」

6/29(月)【教育後援会評議員会】
7/ 8(水)【津村記久子さん講演&トークセッション】
【文藝学会公開講演会】

「人形浄瑠璃演出研究—絵が語る所作の世界—」
山田 和人 同志社大学教授
「顔書を“読む”」 浦山あゆみ 大谷大学准教授

7/ 9(木)【「大拙忌」記念公開講演会】
「私たちは生と死を取り戻せるのか?」
—医療化社会における死生学—
安藤 泰至 鳥取大学医学部准教授

7/15(水)～29(水)【安居開講】
本講『顕浄土方便化身土文類』 福島 光哉 大谷大学名誉教授
次講『唯信鈔文意』 田代 俊孝 同朋大学教授

7/18(土)【西洋文学研究会年次総会】
【研究発表】
「ワーズワースの自然」
源 真帆 京都工芸繊維大学非常勤講師

「ギュスターブ・フローベールとジョルジュ・サンドの腕比べ」
—『ボールとヴィルジニー』を前にして—
黒川 美和 青山学院大学非常勤講師
「『孤独な散歩者の夢想』での『植物学』が意味するもの」
並木 治 大谷大学教授

7/19(日)【教育後援会信越地区父母兄弟懇談会(長野会場)】
7/20(月)【教育後援会信越地区父母兄弟懇談会(新潟会場)】

7/22(水)～24(木)【暁天講座】
22(水)「無窮の道を歩む」 一色 順心 大谷大学教授
23(木)「韋提希夫人の生と死—無生忍を得る—」 田代 俊孝 同朋大学教授

24(金)「他の方便さらになし」 福島 光哉 大谷大学名誉教授

7/25(土)【日本史の会大会・総会】
【研究報告】
「山口県県史編纂の歴史と展望」
山本 琢 山口県県史編さん室

「小学校の学びと育ち」
—社会科・総合的な学習の時間を通して—
山下ひろ子 元南丹市立川辺小学校長
「能面に見る“写し”—切型を中心に—」
齋藤 望 大谷大学教授

「近代日本仏教の対アジア越境」
木場 明志 大谷大学教授

7/28(火)【宗祖御日勤行】
8/ 1(土)・2(日)・3(月) オープンキャンパス
8/ 7(金)～9/17(木) 夏休み



ぬいぐるみを使って講演される
西平直氏

長の廣小路亨先生の言葉を紹介されました。
続いて、京都大学教授の西平直氏が、「死んでゆく不思議・生まれてくる不思議—こどもたちにどう伝えるか—」という題で講演されました。先生は、こどもたちや学生に接した様々な経験から、「死」と「生」、あるいは「生」を問うことは、「いのち」を学ぶことであり、それは困難であっても、教育の現場において考え続けなければならない問題であると強調されました。絵本や持参されたぬいぐるみを使ってのわかりやすい説明に、講演後も聴衆から質問が絶えませんでした。



水島見一教授



学位を授与された方々

このたび、博士後期課程修了者8名に、大谷大学から博士(文学)の学位が授与されました。
学位取得者は、森剛史さん(真宗学)、小澤千晶さん(仏教学)、古谷伸子さん(社会学)、指方伊織さん(仏教文化)、松金直美さん(仏教文化)、山本琢さん(仏教文化)、伴真一朗さん(国際文化)、日高俊さん(国際文化)の各氏です。

課程博士の学位が授与される

佐賀枝夏文教授が「第二十七回社会
事業史学会文献賞」を受賞

大谷大学の佐賀枝夏文教授が分担執筆されました『戦後仏教社会福祉事業の歴史』『戦後仏教社会福祉事業年表』（共に法蔵館、二〇〇七年）が、二〇〇九年五月九日（土）から十日（日）に開催の社会事業史学会大会において、第二十七回社会事業史学会文献賞を受賞されました。

今回の受賞は、仏教社会福祉が果たした役割を、宗派別・分野別にカテゴリー分けし、歴史に沿って解明した功績が高く評価されたため、両著書において佐賀枝先生は、真宗大谷派の戦後の社会福祉事業、児童福祉、そして仏教・仏教徒における女性と母子の福祉について担当執筆されています。

今回受賞となった本は、二冊とも大谷大学の図書館にて閲覧することができます。



佐賀枝夏文教授

豊住征子元教授が全国保育士養成協
議会から表彰

大谷大学短期大学部の元教授で、幼児教育保育科で教鞭を執られた豊住征子先生が、二〇〇九年二月一日（日）、社団法人全国保育士養成協議会から会員校教職員表彰を受けられました。

この表彰は、長年にわたり保育士養成校に勤務し、多大な貢献をなした教職員の業績をたたえ、保育士養成事業の今後の発展に資することを目的に行われるものです。

豊住先生は、一九八七年四月より二〇〇九年三月まで、短期大学部幼児教育保育科にて幼稚園教諭や保育士を目指す学生の指導にあたられました。先生のご専門は音楽で、授業のほかにオペレッタ公演の指導にも力を注がれ、技術だけでなく音楽をとおして子どもたちと共に育ち、生きようとする主体的な保育者の養成にご尽力いただきました。



豊住征子元教授

学術交流協定校 台湾 佛光大学との交流

二〇〇八年十一月三日（月・祝）、学術交流協定校である佛光大学の翁政義学長他四名が木村宣彰学長を訪問され、昨年締結した学術交流協定に基づき、「学生交流に関する覚書」と「台湾仏教・文化体験研修団の交流に関する覚書」の締結を行いました。



「学生交流に関する覚書」調印式

覚書を交換する木村宣彰学長と翁政義学長（右）
（共に大谷大学で）



覚書に基づき、大谷大学GLOBAL SQUAREとは、「台湾仏教・文化体験研修」を開催し、二〇〇九年三月三日（火）から九日（月）、織田頭祐教授を団長に、学生十五名が佛光山寺と佛光大学を訪れました。

この研修は、台湾の仏教・文化にふれることを目的に、大谷大学同窓生の国際仏教教育基金会理事長の慈恵法師（一九七三年修士修了）と、同じく同窓生の佛光大学奥村浩基先生（二〇〇二年博士（文学））の多大なるご協力により実現することができたものです。

佛光大学では、翁政義学長による歓迎の言葉に続き、ちようちんの絵付け、台湾茶のふるまい、京劇鑑賞など、台湾の伝統文化にふれる体験をしました。また、佛光大学の学生による歓迎の歌やダンス、そして日本語の教科書や筆談を取り入れた、日本語を学ぶ学生との交流会がもたれました。参加した学生からは「英語や中国語など、さらに語学力を身につけて、外国の学生ともっと交流ができるようになりたい」との声も聞かれました。



ちようちんの絵付けの様子（台湾 佛光大学で）

佛光山寺では、佛光山開山宗長の星雲大師並びに慈恵法師と訪問団がいつしよに会食をする機会を特別に設けていただき、星雲大師から、「人間仏教」についてのお話をうかがうことができました。また、学生の日



星雲大師（中央右）と慈恵法師（星雲大師の右隣）を囲んで記念撮影（佛光山寺で）

ごろ感じていたる仏教に関する疑問に、星雲大師が丁寧にお答えくださるなど、地域に根ざしている台湾の仏教にふれる貴重な機会となり、日本の仏教についてさらに真剣に向き合うきっかけとなったようです。その他、朝のお勤め、精進料理、写経などさまざまな体験とおして、台湾の仏教や人びとの価値観にふれる研修となりました。

美濃部裕道さん、電動車椅子サッカーチームで活躍

大谷大学の美濃部裕道さん（文学部社会学科第四学年）は、生まれつ

き重度の肢体障害者で、車椅子を動かす力さえあれば誰でも参加できる電動車椅子サッカーに魅せられ、滋賀県初の電動車椅子のサッカーチーム「F.C. LUTESTAR SHIGA」を結成。

電動車椅子サッカーとは、電動車椅子の前部に金属のフットガードを取り付け、サッカーボールの約一・五倍、三十三センチのボールを用いて行うスポーツです。日本での認知度はまだ低いようですが、二〇〇七年には初のワールドカップも開催され、国内にもチーム数が四十を超えるなど徐々に浸透しつつあります。

二〇〇九年五月の予選大会では、美濃部さんのチームは惜しくも敗れてしまいましたが、美濃部さんは来年の全国大会出場を目指し、現在も練習を重ねています。試合時にはスピードが時速六キロにもなるこの電動車椅子サッカーの魅力について、



関西ブロック電動車椅子サッカー大会の様子（滋賀県・野洲体育館で）

美濃部さんは次のように語ってくれました。「スピードとパワーも電動車椅子サッカーの魅力ですが、やはりこの

サッカーをとおしているいろいろな地域の方と出会って、仲間になることが一番の魅力です。試合に勝つことで全国大会に行くこともできるので、いつも出会いを求めて臨んでいます。本当に楽しいスポーツで、今までスポーツに興味がなかった人も気軽に来てほしい。支援者が居て初めて成り立つスポーツなので、ボランティアや健常者の方にもどんどん来ていただきたいです」と。



美濃部裕道さん（滋賀県高月町立古保利小学校）として活躍する美濃部裕道さん（滋賀県高月町立古保利小学校）

また、美濃部さんは全国障害者スポーツ大会でビンバグ投げ競技にも出場し、優勝された経験をもっており、他にも滋賀県では、小・中学校や養護学校で障害児理解の特別授業の講師も務められ、今後ますますの活躍が期待されます。

児童文化研究会が笠取小学校で人形劇を上演

二〇〇八年十一月十五日（土）、笠取小学校（宇治市）で開催された「ふるさと文化のつどい」に、大谷



人形劇の様子（宇治市・笠取小学校で）

笠取小学校と学区住民の方々が中心となって、児童による劇や音楽発表、地域の人びとによる大型しかけ絵本や劇の上演、ハーモニカ演奏など、毎年催されているイベントです。今回は、そのイベントを盛り上げるために、はじめて本学児童文化研究会が招待されました。参加した児童文化研究会の貞光健二さん（哲学科第四学年）は、「子どもたちの素晴らしい出し物もあり、地域の方々の絆の深さも感じられました。僕

たちの人形劇で子どもたちが純粋に楽しんでくれたことが何より嬉しかったです」と感想を語っていました。



笠取小学校の生徒との記念写真

**教員をめざす学生ボランティア活動
が開始される**

大谷大学では、中学校・高等学校の教員免許を取得することができま
す。また、二〇〇九年新たに開設さ
れた文学部教育・心理学科では、幼
稚園一種・小学校一種の教員免許の
取得が可能となりました。

これらの教員免許の取得をめざす
学生たちは、定期的に幼稚園・小学
校・中学校・高等学校などで、実際
にさまざまな形のボランティアをと
おして子どもたちと関わっています。
例えば、教室での担任補助や放課後
の学習サポート、部活動の補助・
コーチ、小学校の朝の登校時の「あ
いさつ運動」や朝ランニングで一
緒に走るなどです。



朝のランニングの様子
(京都市・黎明小学校で)

教員をめざす学生たちが、児童・
生徒に囲まれながら、笑顔で頑張る
現場での経験は、大学の授業では学
べない素晴らしい体験となります。
そしてやが
て教員に
なったとき
必ずその体
験が教育現
場で生かさ
れること
でしょう。

4号館、5号館を建設

大谷大学では、二〇〇九年四月開
設の教育・心理学科の開講カリキュ
ラムに対応した4号館、5号館を東
側キャンパス(元グラウンド)に建
設し、二〇〇九年後期の授業から使
用しています。



新しく建設された4号館(左)、5号館(東側キャンパス〈元グラウンド〉)

この施設には、理科室、音楽室、
図工室など
の実習室や
ピアノレッ
ス室を配
するととも
に、演習室、
中講義室、
大講義室を
設けていま
す。併せて、
教員養成の
支援体制を
強化するた
めに、教職
支援センタ
ー機能を、現
在の至誠館
から全面移
転し、学生
の教職支援
のサポート
体制を充実
いたします。

**二〇〇九年度
春季課外活動の結果**

【団体成績】

- **卓球部(男子)**
・ 関西学生卓球春季リーグ戦
IV部三位 二勝二敗
- **卓球部(女子)**
・ 関西学生卓球春季リーグ戦
III部六位 一勝五敗
- **柔道部(男子)**
・ 京都学生柔道大会
II部三位 二勝一敗
- **硬式野球部**
・ 京滋大学野球連盟春季リーグ戦
I部四位 七勝六敗
- **サッカー部**
・ 京都学生サッカー選手権大会
ベスト8
- ・ 関西学生サッカー選手権大会
Bブロック 二回戦敗退
- **バスケットボール部(男子)**
・ 全関西学生バスケットボール選手
権大会 一回戦敗退
- ・ 京都学生バスケットボール選手権
大会 予選リーグ敗退 二敗
- **バスケットボール部(女子)**
・ 全関西女子学生バスケットボール
選手権大会 一回戦敗退

- ・ 京都学生バスケットボール選手権
大会 予選リーグ敗退 一勝一敗
- **ソフトテニス部(男子)**
・ 関西学生ソフトテニス春季リーグ
戦
V部Dランク一位 三勝

- **ソフトテニス部(女子)**
・ 関西学生ソフトテニス春季リーグ
戦
VI部Bブロック四位 三敗

- **バドミントン部(男子)**
・ 京都学生バドミントン春季リーグ戦
III部Aブロック三位 一勝二敗
- ・ 関西学生バドミントン春季リーグ
VI部Aブロック四位 二勝三敗

【個人成績】

- **硬式野球部**
〈京滋大学野球連盟春季リーグ戦〉
【ベストナイン】
・ 捕手 藤川 圭市
(文学部仏教学科 第四学年)
- ・ 一塁手 吉岡 晋平
(文学部仏教学科 第四学年)
- **【打撃十傑】**
・ 第二位 吉岡 晋平
(文学部仏教学科 第四学年)

人 事

館長などの交代

〔真宗総合研究所主事〕 山本 和彦

(前真宗総合研究所主事 松川 節)

〔学寮長〕 山野 俊郎

(前学寮長 東館 紹見)

二〇〇九年四月一日付(各通)

退職・解任

*定年退職

〔教育職員〕

石橋 義秀(教授・文学部)

泉 惠機(教授・文学部)

田辺 繁治(教授・文学部)

築山 修道(教授・短期大学部)

豊島 修(教授・文学部)

豊住 征子(教授・短期大学部)

藤田 昭彦(教授・短期大学部)

松村 尚子(教授・文学部)

安富 信哉(教授・文学部)

〔事務職員〕

岩城 舜一(総務部)

*契約期間満了による退職

〔教育職員〕

射場美恵子(任期制講師・短期大学部)

森崎 礼子(任期制講師・文学部)

安藤 義浩(任期制助教)

大野 僚(任期制助教)

佐々木茂人(任期制助教)

佐藤 愛弓(任期制助教)

富岡 量秀(任期制助教)

人見 牧生(任期制助教)

源 真帆(任期制助教)

〔事務系嘱託〕

伊賀 亮子(総務部)

上原亜貴子(企画・入試部)

木戸 千紘(学生支援部)

小松 愛子(総務部)

高橋 由佳(総務部)

濱口 映子(教育研究支援部)

山下 由佳(学生支援部)

和田 千夏(学生支援部)

〔寮監〕

花園 一実(貫練学寮)

二〇〇九年三月三十一日付(各通)

*依願退職

〔事務職員〕

渋谷 幸子(企画・入試部)

光弘 隆(総務部)

二〇〇九年六月三十日付(各通)

〔事務系嘱託〕

石田 真琴(企画・入試部)

二〇〇九年五月三十一日付

〔寮監〕

×田麻祐子(自灯学寮)

二〇〇九年三月三十一日付

新規採用

〔教育職員〕

飯田 剛史(教授・文学部)

川村 覚昭(教授・文学部)

齋藤 望(教授・文学部)

高山 芳治(教授・文学部)

望月 謙二(教授・文学部)

田中久美子(准教授・文学部)

市川 郁子(講師・文学部)

岡村明日香(講師・短期大学部)

富岡 量秀(講師・短期大学部)

藤田 昭彦(特別任用教授・短期大学部)

安富 信哉(特別任用教授・文学部)

James C. Dobbins(客員教授)

高橋 真(任期制講師・文学部)

中田 千穂(任期制講師・短期大学部)

三谷 悦子(任期制講師・文学部)

Michael J. Conway(任期制助教)

竹花 洋佑(任期制助教)

寺添 証顕(任期制助教)

戸次 顕彰(任期制助教)

朴 珣英(任期制助教)

林 千宏(任期制助教)

松金 直美(任期制助教)

箕浦 尚美(任期制助教)

〔事務職員〕

荻北紳一郎(総務部)

築田 一毅(学生支援部)

濱口 映子(教育研究支援部)

林 健太郎(総務部)

〔事務系嘱託〕

伊藤 景子(教育研究支援部)

岩本 恵(総務部)

西川 裕子(学生支援部)

野村 弘道(学生支援部)

羽賀麻衣子(企画・入試部)

松林 美香(総務部)

山下 晶江(総務部)

二〇〇九年四月一日付(各通)

今西 達也(企画・入試部)

二〇〇九年六月一日付

〔寮監〕

北條いづみ(自灯学寮)

目崎 明弘(貫練学寮)

〔実習アドバイザー〕

射場美恵子

〔教職アドバイザー〕

細谷 僚一

二〇〇九年四月一日付(各通)

昇格

〔教授〕

一楽 真(文学部)

加来 雄之(文学部)

徳岡 博巳(短期大学部)

〔准教授〕

阿部 利洋(文学部)

天野 勝重(短期大学部)

喜多恵美子(文学部)

平野 寿則(短期大学部)

藤枝 真(文学部)

二〇〇九年四月一日付(各通)

*二〇〇九年度 学科主任一覧

〔文学部〕

真宗学科 加来 雄之

仏教学科 兵藤 一夫

哲学科 池上 哲司

社会学科 寺林 脩

歴史学科 草野 顕之

文学部 沙加戸 弘

国際文化学科 芦津かおり

人文情報学科 松川 節

教育・心理学科 水島 見一

〔短期大学部〕

仏教科 山野 俊郎

文化学科 番場 寛

幼児教育保育科 徳岡 博巳

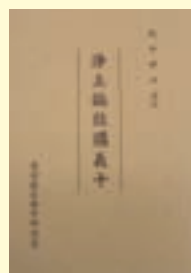
大谷大学教員の出版物紹介

◎『浄土論註講義十』

織田頭祐 講述

奥羽教区教学研究室 刊

(二〇〇八・十二) 一四頁

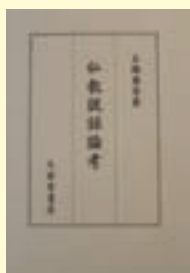


◎『仏教説話論考』

石橋義秀 著

文栄堂書店 刊

(二〇〇九・三) 二八〇頁



◎『近世仏教文化文献の基礎的研究』

大谷大学真宗総合研究所平成二〇

年度一般研究「石橋班」研究成果中

間報告書」

石橋義秀 編集

大秦一浩・佐藤愛弓・本井牧子

分担執筆

大谷大学真宗総合研究所 刊

(二〇〇九・三) 六五頁

◎『創造現場の臨床教育学』

教師像の問い直しと教師教育の改

革のために」

田中孝彦・森博俊・庄井良信 編

著
山内清郎 分担執筆
明石書店 刊

(二〇〇八・十二) 四四六頁

◎『ラテン詩人水野有庸の軌跡』

『ラテン詩人水野有庸の軌跡』編

集委員会 編集

石橋義秀 分担執筆

大阪公立大学共同出版会 刊

(二〇〇九・三) 一七七頁

◎『寺川俊昭選集I〜V』

(全十一巻刊行予定)

寺川俊昭 著

寺川俊昭選集刊行会

(大谷大学第一九研究室内) 刊

※お問い合わせ

<terakawakanokai@gmail.com>



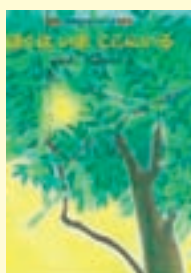
◎『ぼくは いま ここにいる』

佐賀枝夏文 著

成広のり子 絵

東本願寺出版部 刊

(二〇〇九・六) 三二頁



◎『ヘルマン・ヘッセ「樹木・遙かなる思考」』

加藤文雄 訳注
朝日出版社 刊

(二〇〇九・一) 四三二頁

◎『シュトルム名作集I』

テオドール・シュトルム 著

日本シュトルム協会 編訳

加藤文雄 分担翻訳

三元社 刊

(二〇〇九・五) 四三六頁

◎『ヒトと動物の関係学 第二巻』

家畜の文化』

秋篠宮文仁・林良博 編

高井康弘 分担執筆

岩波書店 刊

(二〇〇九・二) 二八〇頁

◎『心理学の発見』

柴原直樹 編

田中久美子 分担執筆
あいり出版 刊

(二〇〇九・四) 二〇八頁

◎『絶対役立つ教養の心理学』

―人生を有意義に過ごすために―

藤田哲也 編

田中久美子 分担執筆

ミネルヴァ書房 刊

(二〇〇九・四) 二二八頁

◎『哲学の眺望』

松山壽一 監修

加國尚志・平尾昌宏 編

竹花洋佑 分担執筆

晃洋書房 刊

(二〇〇九・五) 二二六頁

大谷大学博物館 展覧会のご案内

秋季企画展

「南條文雄と近代仏教学」

大谷大学第二代学長・南條文雄は、ヨーロッパにおける近代的な仏教研究の方法を日本に伝え、仏教研究の新たな地平を切り拓きました。その功績は高く評価され、日本第一号の文学博士を授与されています。本展覧会では、南條文雄ゆかりの品から、その人となりや学問について紹介します。



2009年9月7日(月)～9月26日(土) 実習生展併催

特別展

「祈りと造形―韓国仏教美術の名品―」

韓国・東国大学校博物館との協定締結を記念し、同館所蔵の仏教美術コレクションと、日本国内に遺る韓国伝来の名品を紹介いたします。日ごろ見ることのできない韓国の美術品に触れる貴重な機会です。是非ご来館下さい。



韓流の仏たち、
海を渡って一同来日!

2009年10月13日(火)
～11月28日(土)

金剛阿闍梨三尊仏像
高麗時代(10～14世紀)
東国大学校博物館

背景：三蔵菩薩図
朝鮮時代後期(18世紀) 東国大学校博物館

本道文殊童子像
朝鮮時代後期(18世紀)
東国大学校博物館

開館時間 午前10時～午後5時(入館は30分前まで)
ただし、特別展期間中の金曜日に限り、午後7時まで開館
休館日 日・月曜日(大学が定める休日は休館します)

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 In 075-411-8483 http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

2009年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学ではさまざまな教養を身につけたい方に、本学の研究成果をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

開放セミナーのご案内

1	テーマ	大乗仏教のあゆみ 一親鸞の眼を通して⑦ 「濁世末代の教え―源信―」 (協賛:NPO法人 尋源舎)
	講師	東館紹見(大谷大学准教授) / Robert F. Rhodes(大谷大学教授) 一案 真(大谷大学教授)
	開講日	10月28日・11月4日・18日・25日・12月2日・9日(水)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	響流館3Fメディアホール
	受講料	6,000円(税込)
	申込締切	10月21日(水)当日消印有効
2	テーマ	大乗仏教のあゆみ 一親鸞の眼を通して⑧ 「真宗興隆の大祖―法然―」 (協賛:NPO法人 尋源舎)
	講師	草野顕之(大谷大学教授) / 藤谷昌紀(大谷大学講師) 山田恵文(大谷大学短期大学部講師)
	開講日	2010年2月3日・17日・24日・3月3日・10日・24日(水)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	響流館3Fメディアホール
	受講料	6,000円(税込)
	申込締切	1月27日(水)当日消印有効
3	テーマ	「人のなす罪より低し雲の峰―江戸真宗の生と死―」
	講師	大桑 齊(大谷大学名誉教授)
	開講日	10月16日・23日・11月20日・12月4日・11日・18日(金)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
	申込締切	10月9日(金)
4	テーマ	「元禄三年の芭蕉―流転三界自照の譜―」
	講師	沙加戸弘(大谷大学教授)
	開講日	10月15日・22日・29日・11月5日・12日・19日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
	申込締切	10月8日(木)

紫明講座のご案内

1	テーマ	「仏教説話の世界―『今昔物語集』を読む―」
	講師	石橋義秀(大谷大学名誉教授)
	開講日	9月24日・10月1日・8日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
	申込締切	9月17日(木)当日消印有効
2	テーマ	「ブータンから学ぶ幸福論」
	講師	本林靖久(大谷大学非常勤講師)
	開講日	10月17日・24日・31日(土)
	時間	14:00～15:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
	申込締切	10月9日(金)当日消印有効
3	テーマ	「宗教と疑似科学―現代における宗教の諸相―」
	講師	狭間芳樹(大谷大学・非常勤講師)
	開講日	2010年2月20日・27日・3月6日(土)
	時間	14:00～15:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
	申込締切	2月12日(金)当日消印有効

湖西セミナーのご案内

1	テーマ	「ムギユツの会話術」
	講師	藤田昭彦(大谷大学短期大学部教授)
	開講日	12月5日・12日(土)
	時間	14:00～15:30
	定員	20家族
	会場	湖西キャンパスセミナーハウス
	受講料	一家族2,000円(税込)
	申込締切	11月27日(金)当日消印有効

【申し込み方法】

講座案内の請求:ハガキ、ファックスのいずれかにて、①氏名・フリガナ②〒・住所③電話番号を明記の上、下記へご請求ください。
講座受講の申し込み:上記①～③に④講座名を明記の上、下記へお申し込みください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係
TEL:075-411-8161 FAX:075-411-8162 [http:// www.otani.ac.jp/](http://www.otani.ac.jp/)

*講座名等に変更されることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

教育振興資金(募金)への御礼

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき、誠にありがとうございました。ご寄付いただいた資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。

また、大谷大学は文部科学省から「特定公益増進法人」の認可を受けていますので、寄付金に対しては税法上の減免税措置が受けられます。今後も引き続き、募金のお申し込み受け付けを行っておりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

二〇〇九年二月一日から二〇〇九年六月三十日までの間に、ご寄付をいただいた方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

◆件数 二八件

◆寄付金総額 三、五〇、〇〇〇円

「教育振興資金寄付者(敬称略)」

石澤 一昭 太田 義晴 柏谷 慎一
喜多山 恵邦 小谷 喜男 龍山 了祐
鍋山 清一 服部 精文 樋口 吉宗
藤谷 清 藤津 真 古川 真二
北條 秀樹 松井 聰 真井 順治
水谷 雄一 美濃部 裕子 三宅 得智
和田 章 匿名(二件)
NPO法人 尋源舎
(有)石間企画事務所
(株)フラットエージェンシー
(株)セノン
向源寺(池田都) 泉龍寺(小木曾 章)
浄明寺(日下部 求) 最福寺(里村 和貴)



同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

恩師を囲んで

安富信哉先生最終講義ならびに謝恩会（2009.2.14）
真宗学科で長年ご指導下さった先生を慕って、全国各地から多くの同窓生が集まりました。多くの方から心あたたまるスピーチを頂き、先生の学恩をあらためて感じた謝恩会となりました。



豊島修先生を囲む会（2009.3.7）
豊島先生のご退任にあたり、ご夫妻をお迎えて、ご友人・同窓生約60名が集まり、楽しいひとときを過ごしました。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、1ヶ月前に同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト（名簿）・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金（1万円）を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ





北海道三帰会（北海道在住安富信哉ゼミ同窓会）（2009.3.25）
安富信哉先生が秋安居のため札幌別院に御出講されたのを機に、北海道三帰会として同窓会を開催いたしました。信巻のご講義を拝聴し、また先生の定年に当たりこれまでの御学恩に対し感謝させていただいた会となりました。



昭和43年卒業 短期仏教科同窓会・追弔会（2009.3.12）
亡き恩師・友を偲ぶ追弔会を尋源館で執り行った。併せて懐かしい思い出を語る会座にも恵まれ、同朋の縁を深めることであった。



石橋義秀先生送別謝恩会（2009.3.13）
全国各地から有縁・同窓生が駆けつけ学恩に謝し大いに盛会となりました。先生、永きに互る御領導まことにありがとうございました。

2006年度 加来ゼミ卒業生同期会（2009.5.14）
久しぶりにゼミ生が集まり発表しました。学生の頃を思い出し、懐かしかったです。懇親会では二人合流し楽しい時間をすごせました。



2004～2006年卒業 石橋ゼミ同期会（2009.3.27）
石橋先生のご退官を機にみんなで集まりました。同期生一同、先生の健康とこれからのご活躍を祈っています。



谷大33同期会（昭和33年入学）

（2009.5.19～5.21）

入学以来五十年、越後の地に37名、湯につかり酒を飲み交わし徐々に学生時代に戻り2泊3日の豪農の館めぐりを楽しみました。

スカウト部 創部50周年（2009.5.23）

大谷大学スカウト部の結成50周年の式典が開催される。しかし、新型インフルエンザ流行にともない、多くの参加予定者が急遽不参加。式典会場の大谷大学講堂も、大学臨時休校の為使用できなくなりホテルでの開催でした。



洗心学寮昭和47年度同期会（2009.6.1）

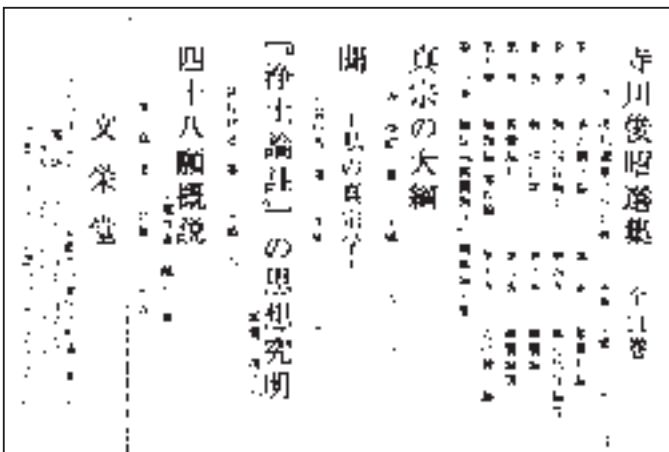
洗心学寮昭和47年度同期会を6月1日（月）に行い、当時の寮生（いいおじさん達）20名が当時の寮監である木村学長を囲んで楽しいひとときを過ごした。



第33回浄眼洞一泊研修会（山田亮賢先生門下生の会）

（2009.5.30～5.31）

何年たっても、唯だ唯だ学び合う。テーマはいつも親鸞、華嚴、佐々木月樵、曾我、金子・・・。ひとえに恩師の情熱のたまものです。



『無盡燈』への広告掲載募集！

会報『無盡燈』への広告を募集しています。
ご協力・ご支援をお願いします。

- ・全1段（タテ6cm×ヨコ18cm） 100,000円
- ・1/2段（タテ6cm×ヨコ8.9cm） 50,000円
- ・1/4段（タテ6cm×ヨコ4.4cm） 25,000円

お申し込み・お問い合わせは同窓会本部まで。

TEL 075-411-8124

FAX 075-411-8157

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

昭和45年育英学寮同期会 (2009.6.9)

大谷大学尋源講堂において東耀文昭君の追弔会を厳修した後、場所を祇園「坂の上」に移して懇親会。故人を偲びつつ旧交を温めた。



1977年入学 短期仏教科同期会 (2009.6.13)

京都センチュリーホテルに、北は北海道から四国まで、男女27名 容姿はともかく、気持ちは32年前の学生が集合！次回は5年後に



佐藤義寛先生の退院を祝う会 (1999~2000年度文学部中国文学分野卒業生) (2009.6.28)

佐藤先生の退院と復職をお祝いで、中文の懐かしいメンバーが集まりました。いい意味で皆変わらず、楽しい一時となりました。

昭和47年卒業幼児教育科同窓会 (2009.6.13~6.14)

夜の更けるのも忘れ大いに語り合い、リフレッシュしました。二年後も多くの参加者で盛り上がりましょう。浜名湖かんざんじ荘にて。



鑑真和上ゆかりの大明寺を訪ねて
「揚州と南京4日間の旅」 2010年3月5日(金)~8日(月)

- ① 関空より空路上海へ 上海着後揚州へ(揚州泊)
- ② 終日揚州観光 鑑真和上ゆかりの大明寺・鑑真記念堂・揚州博物館など(揚州泊)
- ③ 揚州から南京へ 南京着後観光 棲霞山石窟・南京長江大橋・夫子廟・明孝陵など(南京泊)
- ④ 南京から上海へ 上海博物館見学後空港へ 上海より空路関空へ帰国
旅行代金¥100,000(燃油サーチャージ含みます。空港税が別途必要です。)
解説に教授が同行されます。添乗員同行します。

※ 尋源舎は、大谷大学同窓会が設立母体となって活動しているNPO法人です。
※ 土日を含んだ短い日程で旅行代金も安くとの若い同窓生の声にお応えして尋源舎が企画しました。
※ 旅行申込み・お問合せ:国土交通大臣登録旅行業第1516号

株式会社キャラバンツアー 大阪支店 担当柏井
〒550-0005大阪市西区西本町1-2-19千代田ビル5F
TEL06-6532-2202 Fax06-6532-2893

2000年卒業 幼児教育科
Bクラス同期会 (2009.6.28)
社会人10年目を迎えました。現役で活躍
し続けている仲間や、母親として子育て
を楽しんでいる仲間、それぞれのスタイ
ルで、輝き続けています。



大谷大学新聞社OB会 (2009.7.2~7.3)
校友センターおよび施設側のサポートのおかげで、大学湖西キャンパスでの
集いはなごやかで居心地のよいひとときでした。



名畑崇先生「喜寿」のお祝い (2009.7.4)
名畑先生の相変わらずのハイテンションに中年期を迎えた我々が圧倒された一
日でした。またお逢い出来る日を楽しみにしています。

第34回 バスケットボール部OB・OG会 (2009.7.4)
7月4日(土)に、第34回OB・OG会を開催しました。懇親会には
訓覇先生がお越しになり、天寅で「すき焼き」を食べながら、昔話に
花を咲かせました。



昭和49年大谷大学短期仏教科同窓会 (2009.7.18)
古田先生を迎えての同窓会、時間の過ぎるのも忘れて、
話に夢中になりました。
次回は、多くの同窓生が集うようにと決めて解散しま
した。



1994年卒業 大谷大学短期大学部仏教科卒業生同窓会 (2009.7.11)
15年ぶりの初同窓会、延塚教授の講演を聞き学生時代を思い出
し、再会を喜び合い、懐かしむと同時にアットホームな大谷のよさを感じ
ました。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2009.2.14 (土)	安富信哉先生最終講義ならびに謝恩会
2009.3. 7 (土)	豊島修先生を囲む会
2009.3.10 (火)	加治ゼミ2005年度同窓会
2009.3.12 (木)	加治ゼミ2006年度同窓会
2009.3.12 (木)	昭和43年卒業 短期仏教科同窓会・追弔会
2009.3.13 (金)	石橋義秀先生送別謝恩会
2009.3.25 (水)	北海道三婦会（北海道在住安富信哉ゼミ同窓会）
2009.3.27 (金)	2004～2006年卒業 石橋ゼミ同期会
2009.3.27 (金)	加治ゼミ2007年度同窓会
2009.5.14 (木)	2006年度 加来ゼミ卒業生同期会
2009.5.19 (火)	谷大33同期会（昭和33年入学）
2009.5.23 (土)	スカウト部 創部50周年
2009.5.30 (土)	第33回浄眼洞一泊研修会（山田亮賢先生門下生の会）
2009.6. 1 (月)	洗心学寮昭和47年度同期会
2009.6. 9 (火)	昭和45年育英学寮同期会
2009.6.13 (土)	1977年入学 短期仏教科同期会
2009.6.13 (土)	昭和47年卒業幼児教育科同窓会
2009.6.27 (土)	体育会ソフトテニス部OB会
2009.6.28 (日)	佐藤義寛先生の退院を祝う会（1999～2000年度文学部中国文学分野卒業生）
2009.6.28 (日)	2000年卒業 幼児教育科Bクラス同期会
2009.7. 2 (木)	大谷大学新聞社OB会
2009.7. 4 (土)	名畑崇先生「喜寿」のお祝い
2009.7. 4 (土)	第34回 バスケットボール部OB・OG会
2009.7.11 (土)	1994年卒業 大谷大学短期大学部仏教科卒業生同窓会
2009.7.18 (土)	昭和53年卒業 文学部社会学科 教育学分野同期会
2009.7.18 (土)	昭和49年大谷大学短期仏教科同窓会
2009.7.18 (土)	加来先生ゼミ2009年卒業生同期会
2009.7.25 (土)	大谷大学自動二輪同好会 第7回OB会
2009.7.30 (木)	大谷大学40会（昭和40年文学部卒業生の会）
2009.8.14 (金)	渡辺ゼミ（S59年度卒業生）同窓会



加来先生ゼミ2009年卒業生同期会（2009.7.18）
4ヶ月ぶりの再会に、大いに盛り上がりました。全員の社会に出てからの成長ぶりが感じられました。



大谷大学自動二輪同好会 第7回OB会
（2009.7.25）

第7回のOB会が盛大に開催されました。年を重ねるごとにみんなの笑顔が広がり、リラックスしてきました。OB会の帰りに、車中の窓から大谷大学が見えました。ふと、あの頃の描写が鮮明に甦りました。現役生の皆さん、一瞬一瞬の時間を完全燃焼して下さい。



大谷大学40会（昭和40年文学部卒業生の会）（2009.7.30～7.31）
第八回を数える谷大四〇（ヨンゼロ）会は、会場を愛知三河の温泉で
チョー盛り上がりで終了した。



渡辺ゼミ（S59年度卒業生）同窓会（2009.8.14）
恒例の同窓会で、ふと思う。『童心と知的好奇心は失わずに、
本物の大人でありたい。』と。西の空から、渡辺先生が見て
いてくださることを信じつつ…。

通信

「天職を得て」

西尾晴夫

(一九九四年文学部・哲学科卒業)

「なぜ茅葺^{かやぶ}き職人になったのか？」とよく質問を受けます。在学中はバスケットボールに夢中になり、中学、高校、大学と、結局自分のやりたいことを見つけないで、就職活動もしてありませんでした。卒業二ヶ月前に雑誌で見つけた「職人見習い募集」に目がとまりました。茅葺き職人は高齢者ばかりで、後継者がいない、とのこと。私はそれを見て、「どうせやりたいことがないのなら、誰もやりたがらない茅葺きの仕事をして、少しでも役に立つことができれば、私の生きた証ができるのではないか」と当時は思い、飛び込んだのでした。



朝日新聞提供

しかし、一ヶ月で後悔いたしました。体はきついし、将来性はないし、雨が降れば収入がへる。雪が降る冬場は軽トラで焼芋を街に売りに行って生計をたてま

した。将来への不安は常にかかえておりました。十年前に英国の茅葺き修業に行く機会を得て、英国の親方に悩みをうちあげました。「英国では、古い物を大切にし、若い職人もたくさんいる。でも、日本でこんなことをしているのは私くらいだ。本当に生計をたてていけるのか不安です。」すると英国の親方は答えました。「茅葺き技術は世界人類最古の技術、もっと自信を持ちなさい」それから私の視点は変わりました。そして、平成二十年二月三日午前十一時、不思議な体験をいたしました。倉庫で材料づくりをしていると、天から声がしたのです。

「すべて天にゆだねなさい」
体に稲妻が通りぬけたように、全身が喜びに満ち、涙があふれて止まりませんでした。「私がこの職を得たことは天命であり、すべて素直に導きに従えばよいのである」と悟り、すべての不安は消え去りました。親方は我々に全てを授けて昨年他界されました。私は今年見習いを受け入れました。茅葺き職人の末裔であることに感謝し、後輩達が不安なく働ける環境をつくるのが今の私の仕事です。

(かやぶき専門 屋根晴
ニシオサプライズ(株) 代表取締役)

ご結婚

おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを
念じ申し上げます。

()内は最終卒業・修了年(敬称略)
※同窓会本部掌握分



- 谷 祐真(二〇〇四修) ● 栃倉 紘子(二〇〇三修)
 - 三浦 真智 ● 岩崎まゆみ(二〇八四修)
 - 木村 恒 ● 金澤 愛(二〇〇三修)
 - 小谷 紘平(二〇〇四修) ● 田中 正代(二〇〇三修)
 - 佐々木重裕(一九九五修) ● 岸本 佳子
 - 河原 英人 ● 榎本 敬子(二〇〇二短)
 - 中村 憲彰(二〇〇二修) ● 鈴木 智子
 - 梯 真(二〇〇六修) ● 谷村 実穂
- ※大谷大学専修講堂で仏前結婚式をお受けしています。お問い合わせは、総務課 075-421-1813まで。

敬弔

ご生前のご功労を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。
()内は最終卒業・修了年(敬称略)
※同窓会本部掌握分

- 藤 光尚 文学部(一九九〇) 二〇〇七・七・七
- 南 慈朗 文学部(二〇四八) 二〇〇八・八・三
- 常本 慈照 文学部(二〇三八) 二〇〇八・九・三

窓

同

「金メダルへの挑戦」

(二〇〇四年文学部・社会学科卒業)

鈴木 恵子

二〇〇九年九月に行われる第二一回デフリンピックin台北大会の女子バレーボール競技で、二度目の日本代表に選出されました。デフリンピックとは、聴覚障がい者のオリンピックのことで、戦前から開催されています。

一歳半から聴覚障がいを持っている私は、中学から本格的にバレーボールを始め、大谷大学の四年間もハンデいをもとめ、活動を続けました。そして卒業の翌年、二〇〇五年一月、第二〇回デフリンピックinメルボルン大会が私にとって、初の主将、初の海外旅行、初のデフリンピックとなりました。「初」がつくことが多かったプレッシャーを、プ



ラス思考ではねのけ、「銀」メダル獲得という結果を得ました。チームにとって

の「銀」は好成績ですが、私は悔しい気持ちで受け止めていました。次こそはリベンジして「金」を獲得するぞ！という強い意志で、同年の一〇月から、デフリンピック選考会に参加し、日本代表に挑戦し続けた結果、この七月、最終選考で再び選ばれました。

今大会は、前回より強いチームになると確信しています。半数が前大会の経験者で、悔し涙を共に味わい、コミュニケーションをとることの大切さを共通の教訓としているからです。

何のために日の丸をつけているのか？日本代表として自分のため、仲間のため、支えてくれている人たちのため、バレーボールで世界一になるため……。

感謝の気持ちを忘れず、毎日を大切に、最高のチームワークで台北デフリンピックに臨み、金メダルを取って皆で感動を味わいたいです。そのために今できることを一生懸命やっています。

夢を叶えたいという気持ちが強ければ強いほど、叶えられる確立が高くなる！あきらめない気持ちが大きな要素だ！

(京セラコミュニケーション)

システム株式会社 勤務)

*活動詳細 <http://ameho.jp/taipei2009/>

親跡	岸	菊池	臨	浅野	一柳	武内	横山	小松	矢守	上野	松井	長	藤森	相良	加藤	水谷	倉島	藤川	藤谷	村上	佐々木	佐々木	辻	玉井	阿部	杉浦	加藤	蒲池	藤本	中村	香川	岩崎	比叡	大橋	松涛	
宗明	融證	量紹	教順	玄信	宜成	了真	敏	仁	祐威	透	好明	義尚	教念	慶隆	法瑛	可公	直嗣	香嚴	登喜男	敏春	泰次	浩	憲一郎	康之	昭	道寿	俊成	千代	千草	成章	浩史	玄機				
文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	文学部(一九七六)	
二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八	二〇〇九・七・八

「小さな巨人」

緒方貞子さんは六十三歳で第八代国連難民高等弁務官に就任した。その彼女が一躍世界の注目を浴びたのはクルド難民の救済活動であった。

イラクのクエート侵攻により勃発した湾岸戦争では、百八十万人のクルド人が難民となってイラクの国境に殺到した。しかし、隣国のトルコは難民の受け入れを拒否し、国境を封鎖した。その結果、多くのクルド人がイラク領内に取り残されることとなった。

国連は政治的迫害等で国境の外に出てきた人を難民としており、イラク領内にいるクルド人は難民の対象とはならず、救済することはできないというのが当時の決まりであった。そのため、難民高等弁務官事務所の幹部職員の多くはイラク領内のクルド人の救済に難色を示した。しかし、緒方さんはこれまでの慣例を破り、イラク領内にいるクルド難民を救済することを決断した。

彼女は、まず多国籍軍によりイラク領内に安全地帯をつくり、その後、クルド難民をその場所に移動させ、救援活動を行った。彼女は前例にとらわれず、クルド難民の命を守ることを最優先させたの

だ。彼女のとった行動は世界でも高く評価され、一九九五年にユネスコ平和賞が贈られた。

国連難民高等弁務官として在任した十年間、彼女は常に現場に赴き、直接難民の声を傾けた。時には、百五十七センチの小柄な体に十五キロの防弾チョッキを身に付け、危険も顧みず紛争地帯を訪れた。そのような勇気ある行動力と情熱をもった彼女を海外のメディアは尊敬と親しみを込め、「小さな巨人」と呼んだ。

緒方さんは難民問題に取り組むためには「熱き心と冷たい頭をもつこと」が大切であると述べている。難民たちを思う熱い心と、どのようなことがあっても冷静に全体を見ながら、あらゆる手段を講じることが求められる。難民問題を解決するには、彼女が指摘するように「情熱と冷静な決断力」が必要なのである。

緒方さんは学生時代からやっているテニスからも多くのことを学ばれたようだ。スポーツでも彼女のように「情熱と冷静な決断力」を身に付けた人こそが良きリーダーとなるのではないだろうか。

大谷大学教授・体育学

中 桐 伸 吾

表紙絵
「青天」

33.5 × 24.5 cm 二〇〇九年作

青空に扇状の葉をつけて黄金色に輝く銀杏（公孫樹）。銀杏は恐竜が闊歩する中生代から繁殖し、我国では室町時代より全国各地で植樹されてきたが、東北地方、特に青森には巨木が多い。

銀杏は街路樹や寺院に多く見られる。大阪の御堂筋の銀杏は東・西本願寺の別院御堂からのシンボルであり、京都の街路樹も銀杏が使われているところが多い。しかし落葉による日々の掃除と、滑って転倒することの予防で、京都市は美しい黄葉前に枝を切り落として、あまりにも風情がなく、街路樹としての美意識に欠ける。黄葉の美しさと落葉する命の無常を見ることが大切である。銀杏の木には水分が多く、火災から守るためにも寺院によく植えられてきた。一七八八年の京都での天明の大火の折には西本願寺の大銀杏から水が噴き出て御影堂の類焼を免れたと伝えられている。

銀杏とはさまざまな出会いやイメージが強いが、私にとって何より脳裡に浮かんでくるのは本山の報恩講である。蓮噴水の左右の飛地には多くの銀杏が黄葉していて快晴日の霜月の報恩講とが視覚的に一体化している。今年の初夏に巡拝した小島の草庵跡の銀杏も黄葉時にはぜひとも訪ねたいところだ。小島の草庵は聖人が越後から常陸に入られた際、初めて草庵を結ばれた処とされている。

今回の表紙絵は大谷大学の銀杏である。元グラウンドの烏丸通沿いにはヒマラヤ杉と共に何本も並んでいる。中でも一番南側の銀杏は天に向かっている黄色い炎のような形であったが、今は教育・心理という新学科増設に伴い、大きく枝打ちされ形が変わってしまった。古い私達にとっては世界一の仏教を学ぶ大学でありたいと願うのは、反時代性なのだろうか。銀杏には雌雄があるが、元グラウンドの銀杏は雌の結実する木が多い。小さいぎんなんだが、地面にびっしりと落ちる。拾って食したこともあるが、他に拾っている人は見かけない。また、その実から発芽しているのを見かけたことがない。葉は民間療法で糖尿病や夜尿症、咳・痰切りに効くという。

畠中光享（一九七〇年文学部卒業）

京都造形芸術大学教授
大谷大学非常勤講師

2009年9月15日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。